

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第284号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2010年1月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・杉一郎

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate thy thought in thy early days

若き日に汝の体躯を養え

Make thy body strong in thy early days

若き日に汝の智能を磨け

Improve thy wisdom in thy early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Chain thy hope to the stars in thy early days

TOP*NEWS

あけましておめでとうございます 2010年が希望に満ちた年でありますように



完成間近い高輪キャンパス情報通信学部新1号館(地上7階、地下2階)3月竣工予定



7階から泉岳寺・品川方面を望む



7階から本校校門方向を望む

新年を迎えて ～更なる飛躍を目指して～



校長
杉 一郎

新年明けましておめでとうございます。新しい年の始まりです。

一昨年の野球部東東京大会準優勝に引き続き、この1年もたくさんの部活動がいろいろな記録を創りだしてくれました。その中でもサッカー部とレスリングの澤君のインターハイ(近畿まほろば総体)出場は、高輪台に大きな感動を与えてくれました。

レスリングの澤君は6月13日土曜日、西が丘のナショナルトレーニングセンターに於いて84kg級で優勝してインター

ハイの出場権を得ました。続く6月20日土曜日、サッカー一部が駒沢第二球技場で東京都代表としてインターハイ出場を決めました。全国大会常連校の國學院久我山高校を延長戦0-0の後、PK戦を5-4で破りインターハイの切符を勝ち取りました。

8月に行われたインターハイでは、サッカー応援のためバス5台に分乗して奈良に向かいました。団体球技として高輪台で初めて全国大会に出場したサッカー部。サッカー部の部員、保護者の方々、同級生や教職員に混じって、多くの卒業生も競技場に集結して、大きな声でサッカー部を応援しました。部活動推薦もなく、あちこちのグラウンドを回り

ながらの練習、けて恵まれた環境ではないけれど、こつこつと努力を重ねて全国大会の切符を手に入れたことは、高輪台のその他の運動部にも「自分たちもいつか全国大会に出場できるかもしれない」という夢を与えてくれました。

サッカー部が奈良でインターハイを戦っている頃、東京体育館ではダンス部が全国高等学校ダンスドリル選手権大会日本大会で審査員特別賞を受賞しました。

バドミントン部と共に東京国体の強化校に指定された卓球部の東京都4位、2年連続関東大会出場もうれしいニュースでした。パシフィコ横浜で行われた全日本高等学校吹奏楽大会で連盟会長賞を受賞した高校吹奏楽部、その弟分の中等部吹奏楽部も、創部3年目の今年度、文京シビックホールで行われた日本管楽合奏コンテスト全国大会で優秀賞を獲得しました。

夏に行われた学園オリンピックスポーツ部門で、本校の男子が総合で3位になったのも本校始めて以来の快挙でしたね。

スポーツ部門に先立って実施された学園オリンピック文化

部門では、一次審査を通過した19名が頑張り、優秀賞3名、奨励賞1名、努力賞2名、芸術部門銅賞1名、国語部門佳作2名というすばらしい成績を修めることが出来ました。

これら本校の諸活動が高い評価を受け、「Power of Smile」をテーマにした第45回建学祭では5,849名のご来客を迎え開催されました。台風のため準備日が1日短縮されましたが、レベルを落とすことなく実施できました。これも皆さんの努力の結果ですね。

インフルエンザが流行する中で2年生の研修旅行、1・2年生の夏期カナダ短期留学が無事に実施されました。秋のインフルエンザの大流行では多くのクラスが学級閉鎖となり、その後授業時間確保のための補習も行われました。

2010年の幕開け。まもなく実施される中等部3年生のニュージーランド研修旅行、中等部から初めての内部進学、部活動の新たな活躍、等々さらなる飛躍を目指して、今年も全力で頑張ります。

生徒会新役員決まる

11月12日、生徒会役員選挙で来年度の役員が決定しました。高校では、会長、副会長、会計、書記すべてが信任投票でした。中等部では立会演説が行われ、会長、副会長、会計が信任投票、書記1名は立候補者の中から決選投票で選出されました。新役員の皆さんは先輩たちが築いてきた伝統を大切にしながら、高輪台高校・中等部がさらに発展していけるよう力を注いで下さい。また、生徒の皆さんも新役員の下、よりよい学校生活を送れるよう協力していきましょう。

中等部生徒会新役員

会長 2年 A組 渡邊 陵太

副会長 2年 A組 西森 奏弥

副会長 1年 B組 伊藤 真穂

会計 2年 A組 徳下 善大

書記 1年 B組 河村 優希

高校生徒会新役員

会長 2年 1組 小林 一貴

副会長 2年 9組 剣持 瑛行

副会長 1年 9組 山脇 伶王

会計 2年 2組 西川 佑依

会計 1年 3組 長嶺 優輝

書記 2年 9組 岩男 拓実

書記 1年 7組 會田 旭



後列左から、徳木君、河村さん
前列左から、西森君、渡邊君、伊藤さん



後列左から、長嶺君、岩男君、山脇君
前列左から、西川さん、小林君、會田さん、剣持君

高校生徒会会長



小林 一貴

2年1組 川崎市立平間中学校出身

今回の生徒会役員選挙で信任をいただきありがとうございます。生徒会長になることができました。生徒会長になれたからといって浮かれてはいられません。なったからには、みなさんの期待に大いに応えられるよう、努力していきたいと思ひます。

生徒会長になって、変わったことが多くあります。1つに、自分のこと以外にも人のことをすごく考えられるようになりました。これは、今後皆さんの意見を聞いた時などにたくさん必要になると思ひます。一人ひとりの気持ちを自分に置き換えて考えていけるようになるということです。2つに、自覚です。これからは、皆さんの前に立って何か話をさせてもらうことが多くなると思ひますが、その時の態度、言葉、行動がすべて大切になっていきます。生徒会長としての自覚を持ち、そこを意識していかないとはいけません。これから1年間みなさんのために働きますので、よろしくお願ひします。

中等部生徒会会長



渡邊 陵太

2年A組 さいたま市立中島小学校出身

今年度は3学年が揃ったということで中等部の節目の年だと思ひています。そこで今まで以上に生徒会活動を積極的に行っていききたいと思ひます。そして生徒の皆さんが充実した楽しい学校生活を送れるようにしていきたいと思ひます。

今回、僕が取り組んでいきたいのは、まず生徒会と生徒の皆さんとの距離を縮めることです。生徒の皆さんの意見を大切に生徒会活動をしていければと思ひます。

もう1つは、様々な学校行事を盛り上げていくということです。実行委員・生徒会役員を中心に生徒の皆さんと相談して楽しい行事をしていきたいと思ひます。

そして、生徒の皆さんがこの学校に入ってよかったと思えるような学校にしていきたいと思ひます。

中等部生徒会5人、一致団結して頑張っていきたいと思ひますので、1年間皆さんのご協力をお願ひします。

生徒会旧役員のひとつこと

生徒会旧役員を代表して中等部、高校それぞれ3年生に1年間を振り返ってもらいました。

中等部生徒会旧役員

会長 3年B組 長瀬慶太郎

今年度は第1回中等部体育祭を行うことができました。中等部生活の最後の年に大きな責任を感じる仕事をできました。協力してくれた生徒会メンバー、中等部のみならず充実した学校生活を送れたことに感謝しています。

副会長 3年A組 村上 来地

昨年度の生徒会役員は自分が副会長であることを忘れるほど、役職に慣れず全員で仕事を分担し、幅広い意見を聞くことができました。

副会長 3年B組 川口万寿実

私は約2年間、副会長として生徒会活動に励んできました。初めは部活との両立が大変でしたが、生徒会のメンバーの人達が優しくしたので楽しく仕事ことができました。生徒会で活動できて本当に良かったです。

書記 3年B組 青木 昂

1年間生徒会書記をしていて思ったことは積極的に話に参加できたことです。書記とはただ話の内容を紙に書くだけだと思ひていましたが、話し合いの中で自分の考えを発言することができ、とても良かったです。

高校生徒会旧役員

会長 3年4組 大沼 雄貴

初めての生徒会、しかも会長という仕事で最初はとても大変でした。しかし、建学祭、体育祭、部活動、委員会のさまざまな人と話したり、沢山の意見を聞けて、学校の色々な面を見ることができ、とても貴重な経験になりました。1年間ご支援本当にありがとうございました。

副会長 3年9組 滝沢 晴名

この1年は様々な活動をし、多くの人に触れ自分の中で大きく成長した年でした。生徒会の仕事にはなかなか出られず仲間に迷惑をかけてしまいました。しかしこのメンバーで1年活動できたことは大きな財産になりました。

会計 3年5組 大貫 絵理

初めてのことが多くとても不安でしたが、いろいろ学ぶことができて良かったです。企画書を書いたり決算をまとめたボランティアをしました。大変なことたくさんあったけどやりがいのある事ばかりでした。

書記 3年9組 古屋 佑磨

書記としての主な仕事は中央委員会での議事録を書き取ることなのですが、やはり一番記憶に残っているのは生徒総会に向けての準備でした。役職は関係なく仕事をしたことは辛かったけれど良い思い出です。

一年間お疲れ様でした!

後列左から
大貫さん、岩男君、古屋君、剣持君、吉田君、滝沢さん、大沼君
前列左から 徳下君、川口さん、長瀬君、村上君、青木君



中等部 1 学年 だより

地道に進むこと

学年主任 笹木 春光

地味で真面目なことや、手堅く着実な態度のことを「地道」といいます。「地道な努力が実を結んだ」などとよく用いませぬ。実はこの言葉、もともとは馬術用語であり、馬術には「のり(かけあし)」「かけ(はやあし)」「地道(なみあし)」の三種類の足並みがあります。地道はその基本とされ、常に三肢または二肢が地についている安全で疲労度の少ない歩法です。このように、目立たないが着実な歩みから転じて現在のような用法が生じたのでしょうか。

さてみなさん、自分の生活の中で「地道」に進めていることは何かありますか。とにかくやりたいことすべてに挑戦し、早く結果を出すべく頑張る。そういう好奇心とチャレンジ精神は確かに大切だと思います。しかし、何か1つ焦らずにじっくりと「地道」に進められるもの、変わらずに継続させているものを持っていてほしいと思います。そうすれば、それが自分の自信となり、他のことにも生きてくるのではないのでしょうか。

〈参考文献〉『日常語の中の武道ことば言語辞典』 加藤寛・西村諒 東京堂出版

スポーツ大会

12月3日(木)の午前中にスポーツ大会が行われました。種目は、ドッジボール・バスケットボール・シュート合戦・綱引きの4種目で、中間試験も終わり、思いっきり汗を流しました。



勝利の笑顔



引っぱられるーっ



A組 集合



B組 集合

校外行事 伝統芸能「落語・講談の鑑賞」

12月4日(金)に東京銀座の「お江戸日本橋亭」にて落語の鑑賞会が行われました。当日はお天気にも恵まれ、楽しい会を持つことができました。演目は、落語が二席に講談が一席、コントが1つと飽きさせない構成で、内容も中学生を意識した配慮がされており、落語や講談の歴史の解説やガイダンスも織り交ぜながら約2時間の公演を生徒たちの笑い声の中で楽しく過ごすことができました。

落語のおもしろさ

1年A組 大田区立馬込第二小学校出身 梅畑 洸之介

僕は落語を見たのは初めてではありませんでしたが、今回の話は前に見たときは全く違う話だったので、興味をもって聞くことができ、落語が好きになりました。初めて見たときは「テツアンドトモ」という人達が出ていて、そのコントが面白くて落語の方はそれほどでもありませんでした。でも今回は理解できる場所が多くなっていて、イメージも変化してとても面白いなと感じました。特に最初の話は、「てんしき」ということばの意味がわかってくと、とたんに面白くなりました。わからないことばを理解して江戸時代にタイムスリップしたような気がしました。そういうところが落語の魅力だと思います。



正面玄関



中等部2学年だより

新年を迎えて

あけましておめでとうございます。ついこの間2年生になったと思っていたらあっという間に2009年が過ぎていきました。あと3か月後には中等部の最高学年になります。3年生になると中等部を引っ張っていく中心的存在になり、それにふさわしい態度が求められるようになるでしょう。みなさんは2010年をどのような年にしたいですか?今回は中等部2学年の先生方に今年のみなさんに期待することを聞きました。

- | | |
|-----------|---|
| 田中 | これまでの学校生活の経験を生かし、善悪の判断を自分でくださしてほしい。 |
| 清水 | 何事も自ら前向きにやる!!「やらされる」よりもずっといい気分になりますよ。 |
| 皆川 | たとえ今日の努力が実を結ばなくても、また明日立ち向かう決心をしてください。 |
| 竹内 | 聞き上手になりましょう。特に授業中の説明などをしっかり聞けると理解が楽です。 |
| 田島 | 2010年は字を丁寧に書いてほしいと思います。特に解答用紙には丁寧に書きましょう。 |

スポーツ大会・校外行事

後期中間試験の2日間、12月3日に本校アリーナでのスポーツ大会、4日に東芝科学館とテルム(リサイクルセンター)を見学する校外行事を行いました。中等部2学年は「科学」をテーマに校外行事を行っています。東芝科学館ではゲーム感覚でさまざまな科学の進歩を体験し、リサイクルセンターでは普段見られない家電製品などを解体する現場を見学することができました。

校外行事

嶋田 将也

2年A組 大田区立大森第一小学校出身

定期試験が終わり、その週の週末は校外行事でした。今回は「東芝科学館」に行ってきました。

東芝科学館では「東芝」の歴史や「東芝」という名前の由来、東芝の日本初の電気製品まで学ばせていただきました。さらに、静電気の実験や雷の発生実験などを見学させていただき、とても良い体験をしました。

中でも静電気発生実験はとても深く印象に残りました。自由時間に1階をうろうろしていたら、係員さんに声をかけられ、「なにかおすすめはありますか?」と聞いたらこの実験をすすめられました。「パチッとコース」を選んでみたら、その名の通りパチッとして痛かったですが、その分印象に残りました。良い体験ができてよかったです。

校外行事を終えて

武田 奈々

2年B組 中央区立日本橋小学校出身

私は東芝科学館には小学校でも1度行ったことがありました。でもその時には全員で行動していたので1つ1つをじっくり見ることはできませんでした。しかし今回は自由行動の時間もあり、前には気付かなかったことをたくさん見ることができました。

展示物の中には驚く物が多かったです。年代順に並べてあるものは本当に科学の進歩を感じました。今使っている液晶テレビも昭和では画面も小さく信じられませんでした。他にもたくさんすごいものがありました。

その後にはリサイクル工場に行きました。リサイクルしている現場は初めてだったので初めて知ることがたくさんありました。工場ではいつも使っているものが何か分からない程細かい部品に分かれていますごく驚きました。

新発見がたくさんあった1日でした。



リバウンド!!



引け〜!!



動きでゲームのキャラをコントロール! パソコン解体を見学中



中等部3学年だより

中間試験終了

去る12月1日(火)2日(水)に後期中間試験が行われました。AB組それぞれのクラスから一人ずつ中間試験を振り返ってもらいました。

中等部最後の中間試験を振り返ると、今回は前よりも平均点以上の教科が多くとても嬉しかったです。特に国語の点数が良くて自分でも驚きました。高校になったら今よりも教科が増えるので気を引き締めて、一生懸命頑張りたいと思います。

寺田朱里 (3-A)

僕は英語が苦手なため、試験ではいつも点数が低いです。そのため英語の先生から試験で点数が取れるように毎日一枚ずつ課題を出してもらいました。毎日やらなければならないので、嫌になる日もありましたが、なんとか全てやり遂げることができました。その成果がきちんとテストに出たので自分もやればできることが改めて分かりました。

上村圭太 (3-B)

スポーツ大会・校外活動

中間試験終了後12月3日(木)に中等部最後のスポーツ大会、4日(金)に校外活動で文楽鑑賞(演目:仮名手本忠臣蔵)に行きました。文楽は初めて行く人が多く刺激を受けたようです。

前までは自分たちの学年だけで、どうしても寂しくなっていました。年が経つにつれて学年が増え、とても盛り上がるものとなりました。ここまで盛り上がるのはとても良いことだと思います。

鈴木 友季也 (3-A)

今回が最後のスポーツ大会だったので、全力で色々な種目に取り組み、楽しかったです。特にバスケットボールはとても白熱して盛り上がりました。高校生になってまたスポーツ大会ができるので、今から楽しみです。

眞野 義人 (3-B)



人形ってすごい!

木村 夏実

3年A組 川崎市立犬蔵小学校出身

私は今回初めて文楽を観に行きました。行く前は正直あまり期待をしていませんでした。しかし始めてみると、「本当は自分の意思で動いているんじゃないか」と思うほど人形の動きが自然で驚きました。今回私たちが観たのは「仮名手本忠臣蔵」という演目で切腹のシーンがありました。その中で特に切腹するための畳みを持ってくる時の人形が、本物の人間に見えました。また人形よりも大きい畳みを人形がどう持つてくるのかが気になりました。切腹をした時、周りの人形たちの雰囲気は本当に悲しそう、台詞もほとんどないのに、雰囲気が出せるなんてすごいなあと感動しました。

なかなか観る機会がないので今回観に行くことができて良かったです。

人形の人間らしさ

高垣 龍之介

3年B組 大田区立山王小学校出身

忠臣蔵は年末などに時代劇で何度か観たことがあり、話の内容はだいたい知っていましたが、劇を観るのは初めてでした。文楽は昔の大阪弁で日本語とは思えないくらい難しかったのですが、右上に字幕があったので理解できました。また人形をあそこまで人間のように見せられるのはすごいと思いました。切腹の場面で10~20分もかけて心情を表している場面はわかりやすく、人間性が出ていて良かったです。人形の顔は表情がないのですが、目やまゆや体を動かして起こったり、悲しんだり笑ったり、それぞれの動きで変化をつけていたので、すごい技術だと思いました。今度観るときは、今回観た話の続きや、人情物を観てみたいと思いました。

高校1学年だより

あけましておめでとうございます。

2010年を迎えました。皆さんは新しい年をどのように過ごそうと考えていますか？ 今回は、高校1年団の先生方の新年の目標と皆さんへのメッセージを紹介いたします。

何はともあれ、健康が一番。毎日を健康に過ごすこと。健康を失って、はじめて健康のありがたみがわかります。皆さんも健康に気をつけてください。
(学年主任 高橋 昇・英語)

「泣いて過ごすも一生、笑って過ごすも一生」どうせ過ごすなら人生楽しく、生きたいものです。自分に素直に、謙虚な姿勢を失わず過ごしていきたいと思っています。
(1組学級担任 細田 功・地歴公民)

2009年は新しい高校生活の中であつと言う間に過ぎたことでしょう。しかし高校は長い一生の中の通過点。明日の自分に感謝される今日の自分を今年もお互い作りましょう!
(2組学級担任 南館 由里香・英語)

クラスに授業にサッカーと楽しかった2009年、2010年はもっと楽しくなる予感!やらなければいけないことは沢山あるけれど、全部楽しんでしまおう! 沢山話しかけてください。
(3組学級担任 川島 純一・保健体育)

ここ数年、新年の目標を決めようと思っているうちに、1年が終わっているような気がします。今年こそは早めに目標設定をし、がんばろうと思います。
(4組学級担任 橋 健治・英語)

来年は、年間で読書200冊。私の恩師が年間1000冊読んでるので、少しでも近づけるよう精進していきたいです。ただ、これでは差をつけられる一方ですね(笑)
(5組学級担任 数馬 大介・国語)

私が大学院生のとき、世間では2000年問題が騒がれていました。あれから早10年。「光陰矢の如し」を改めて感じています。今年も1日1日を大切にしていきたいものです。
(6組学級担任 山田 武範・理科)

新しい自分を発見し、開拓するために色々なことに挑戦していきます。3年間の高校生活はあつという間に過ぎていきます。1日1日を悔いのないように過ごしてください。
(7組学級担任 山崎 一沙・保健体育)

目標は腹筋を割ること。みんなには何かをしたいではなく、何かをするため・成し遂げるためには今何をすべきかを考えて行動できるように1歩大人に近づいてほしいです。
(8組学級担任 大塚 一磨・数学)

目標は、計画を立てる。直前の追い込み型から少しでも改善したいです。みなさんも少し先のことを考えて行動できるように心がけましょう。
(9組学級担任 田村 英典・数学)

心も、体も健康で。かけがえのない「今」を大切に、高校1年の残りの日々を悔いなく過ごしてください。

(学年所属 金子 真奈美・国語)

快眠・快食・快便!毎日の充実した生活は当たり前の行動の小さな小さな積み重ねから生まれます。快眠だけはぜひおうちで!さもないと大きな大きなしっぺ返しがきますよ!

(学年所属 宮嶋 孝一・公民)

昔の人の英知は切れ目ない時の流れの中で、節目節目に大みそかにはその年の反省を、迎えた元旦にはその1年の計を立てよといった。2009年の諸君の反省はどうでしたか? そして迎えた2010年の1年の計は立ちましたか? 1学年の節目は3月です。まずはあと3か月間の計画を確実なものにしていこう!
(学年所属 石井 達人・理科)

今年も1日1日を大切に、充実した1年にしたいですね。皆さんも今年はいよいよ2年生。目標をしっかりつけて頑張ってください!!

(学年所属 畠田 貴生・理科)

高校2学年だより

アイコンタクト

学年主任 米谷 昭人

相手に自分の話を聞いてもらいたい時や、自分が真剣であることを伝えたいときに、皆さんは目を見て話をしていると思います。アイコンタクトをしっかりとって話をすると相手はあなたを信頼してくれて、気持ちや真剣さが伝わります。

自分が大事な話をしているのに相手がテレビを見ながら話を聞いていたらどう思いますか？真剣に聞いていると言われても信じられません。真剣に話を聞くということは相手の目やその方向を見ることです。アイコンタクトすることによって相手に話を真剣に聞いていることが伝わります。コミュニケーションでは、このアイコンタクトがとても大事になっています。

さて、皆さんに質問です。授業中に、先生や生徒の目やその方向を見ていますか？真剣に話を

していることや、真剣に聞いていることが伝わっていますか？伝えようとしていますか？私は、真剣に話をするときには相手と目を合わせて話をします。目を見ていないと注意して真剣に話をします。授業や部活動でも同じです。相手の目やその方向を見ていない人は、話の理解度が低くなり、差が出てきてしまいます。聞くときも同じです。悩んでいる生徒の話を書くときには、必ず目を見て聞きます。その生徒のことを真剣に理解しようとするばおのずと目を見てしまいます。生徒が発表するときも相手の目を必ず見て話を理解しようとします。

アイコンタクトにより授業中から普段の生活までの全てが変わってくると思います。是非実践してみてください。コミュニケーション力が上がると思いますよ。

偶然の出会い 「Serendipity 探して」

3組学級担任 野口 大輔

科学技術の発展を陰で支える「セレンディピティ」。語義や語源を説明するよりも具体例をいくつかお話した方が、この言葉の持つ本質をより正しく理解してもらえるかと思いますので、簡単に紹介したいと思います。

まずは、強力な瞬間接着剤の開発に取り組んでいたところ、誤って粘着力の弱い試作品が合成されてしまったという話。その簡単に剥がれてしまう失敗作も、何か別のことに活かせるはずだ、と創意工夫を重ね、ポストイットが発明されたのだそうです。

オナモミに想を得てマジックテープが誕生したのは有名な話ですが、これもセレンディピティの一種です。フレミングによるペニシリンの発見も白

川英樹氏らによる電気を通すプラスチックの発見も、偶然の出会いから生まれたものだそうです。

ここで私が言いたいのは(もちろん良い意味で、ですが)、もともとの目的を忘れてみませんか？ということ。「〇〇をやるつもりで高輪台に入ったんだけど…」とか、「××学部に進学したくて高輪台を選んだのに…」というような言葉を、たまに耳にします。でも、そういう気持ちはいったん捨てましょうよ。それよりも、大切なのは「いま」と「ここ」。たとえ失敗っぽくみえても、セレンディピティは必ずあなたを待っています。それにあなたが気づいていないだけ。探す努力をしていないだけ。

まだまだ捨てたもんじゃないよ、人生も。

参考文献 宮永 博史「成功者の絶対法則 セレンディピティ」(祥伝社)

高校3学年だより

2010年を迎えて

3年7組担任 金 恵潤

年が明けて高校3年生は本当に残り少ない登校日となりました。今行われている特別講座は大学に何かしらの形で役に立つものが多いはず。最後まで気を引き締めていきましょう。よく、オーラルコミュニケーションの授業中に外国人の先生が、“Have the initiative!”と言っています。答えを与えられるのを待っているだけではなく、わからない時は自ら調べるといった「自発的」な態度が必要だということです。大学生になると自分のことは自分で決めなくてはならない機会が増えてきます。自分が欲しい環境は自分で手に入れなくてはいけないのです。不平不満を言っているだけだと、状況は変わりません(ストレス発散にはなるかもしれませんが…)。

人生とは1つ1つの選択の積み重ねとも言えると思います。確かに周りからのアドバイスに耳を傾けることはとても

大事なことです。しかし最終決定は自分で下すべきだと思います。なぜなら自分で決めないで、他人に決めてもらうと、後々言い訳に繋がりがうるからです。大学生になってからは授業決め、どこに住むのか、どんなアルバイトをするのか、海外留学するか、どんな国へ旅行するのか、どんな毎日を送るのか、そして卒業後、どんな業界でどの会社に就職するか、などなど自分で決めなくてははいけません。みなさんは、そういった段階に近づいているのです。想像すると、わくわくするかもしれませんが、実は大変なことです。選択は正解や不正解をはっきり区別できないと思います。「結果的にあの選択は良かった」「ああいう風に選択して間違っていたかもしれないけど、学ぶことも多かった」など、すぐに答えがでるものでもないからです。ただ、待っているだけでは何もやってこないのですから、自発的に色々なことに挑戦することが大事なはずです。2010年は自分で何かを掴み取る、そんなチャレンジ精神を持ってみてはどうでしょうか。

11月12日に行われた3年生スポーツ大会(アリーナ)より



3学年主任江口先生からあいさつ 講評



楽しんでいます!!



このスタイルで9組つな引き優勝!



結果はともかく…おつかれ様



5組総合優勝!



楽しかった~

2009年度学校運営方針

11月12日、13日、2009年度第2回一斉公開授業を行い、中高合計で200名を超える保護者の方々をお迎えし、熱心に授業を見学していただきました。特に、中等部の授業公開には117名の保護者の方々が来校され、元気に勉強する中等部の授業を見学していただきました。

保護者の方々には、帰り際にベストティーチャー候補の授業評価アンケートに答えていただき、多くのご意見・ご感想をちょうだいいたしました。

また、26日には第3回「生徒による授業評価アンケート」を実施し、後期中間試験までの授業の評価を受けました。それぞれの授業担当者は前期に受けた授業評価アンケートによる問題点を改善できたでしょうか。まだ改善がなされていない分野に関しては、今後いっそうの努力を重ねていきたいと思えます。

全授業を公開し、研究授業・公開授業へ積極的な取り組み

- ・年間を通じて、常に授業を公開する。
- ・授業見学がしやすいように、定期的に年2回3日間、一斉公開授業日を設定し実施する。

「生徒による授業評価アンケート」の結果を受けて、授業改善の期間と数値目標を設定し、組織的な(各教科)授業改善によるフィードバック

- ・教員の授業自己点検を行うと同時に、「生徒による授業評価アンケート」の結果から授業改善の期間と数値目標を設定し、組織的(各教科など)な授業改善に努める。
- ・授業改革・授業評価の推進と定着をはかる。
アンケート結果の自己分析⇒改善目標の設定⇒生徒への説明⇒授業改善⇒信頼



2009年度松前重義記念基金建学記念小論文 優秀作品

12月号でご紹介した2009年度松前重義記念基金建学記念小論文・作文優秀作品の中から、とくに評価の高かった中山さんの作品を全文紹介します。

私の心に残っている言葉

中山 瑠璃

2年4組 練馬区立開進第一中学校出身

「僕は目が見えなくてもいいんだけど、もし1日だけ目が見えたら、お母さんの顔が見たい。」

今年6月、ピアニストの辻井伸行氏がヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで、日本人として初めて優勝したことは記憶に新しい。前述の言葉は、高校生の頃の辻井氏が彼の父に語ったというものである。受賞当時、テレビのインタビューに応じる辻井氏の姿を見て以来、この言葉がずっと私の心の中には残っている。

健常者である私たちにとって、目が見えるということは当たり前のことだ。私は現在高校の軽音楽部に所属してギターを弾いているが、演奏する際には楽譜を見ることにも押さえる弦を確認することにも、当然のように目を使う。始めの頃は特に、弦を押さえる指から目を離す余裕など全くない。私に限らず楽器を始めたばかりの時は誰もがそうであり、練習中の部員が揃って下を向いているその練習風景は自然なものであった。

だが盲目の辻井氏には、五線譜の上の音符を追うことも、自分の指が鍵盤のどの辺りに置かれているのかを目で確認することもできない。それでも彼はピアノを弾くことがとにかく楽しく、辛かったり困難に思ったりしたことは一度もないと言う。私たちが目を使って楽器を練習することが当たり前であるように、目を使わないでピアノを弾くことが彼にとっての当たり前なのだ。

また、1947年にノーベル文学賞を受賞したフランスの小説家、アンドレ・ジッドは自身の著作『田園交響楽』の中で、次のように綴っている。

「目が見える人間は、見えるという幸福を知らずにいる。」

当たり前の幸福を、普段から常に意識していることは難しい。『広辞苑』で「幸福」を引いてみると、「満ち足りた状態であって、幸せだと感ずること。」とある。だが目が見える人間にとってはそもそも、目が見えることは「満ち足りた状態」とイコールであるどころか、生活上の前提条件と言っても過言ではないので、それと幸福はほとんど結び付かないのだ。もちろん人によって幸福の基準はそれぞれだし、第一に広辞苑の説明文を結論とすること自体がいささか乱暴な話とも言えるのだろうが。

ここまで視力に関する2人の人物の言葉を引用したが、当たり前の幸福に当てはまるものは、何もそういった身体的な点だけに限ったことでは当然ないだろう。

例えば、私たちは現在、当たり前のように学校に通って、友達や先生と話したり勉強をしたりすることができる。しかし国連児童基金の調査によると、2001年度から2002年度には、初等教育就学年齢にある約1億1500万人の子どもが学校に通っていないことが分かった。否、通っていないというよりも、学費や施設不足や差別といった子どもたちの感情とは別のところにある都合により、彼らが望んでも学校に通うことができないのである。また、就学をしていても出席していないというケースも多いので、教育を受けられていない子どもの実際の人数は、調査で出た数よりも多いことが予想される。

それにも関わらず、学校に通えない子どもたちの存在を知っても、学校に通う毎日はやはり面倒臭い一蹴する子どもは日本では珍しくない。実際、私が小学生の頃に総合学習の授業で貧困に苦しむ子どもたちのビデオを見た時、「学校に行って皆と勉強をしたい」と涙するアフリカの子どもを見て、多くのクラスメイトは「授業なんか別に楽しくないのに」と本当に疑問そうに話していた。私自身も以前から、通学することを面倒に思うことが度々あった。遠い国で起きている惨事を身近な問題として捉えることができなかったというのも、大きな理由の1つだろう。その話を聞いた後の、ほんの少しの時間だけは私の意識が変わることはあっても、またしばらくしたらやはり学校に行くのは面倒臭いと感じてしまうのである。

辻井氏の言葉を聞き、更にジッドの言葉を思い出したその日、私は今の自分の生活というものについて改めて考えた。目が見えているということは、私は恵まれた人間なのだろうか。もしも今誰かに、あなたは幸福かと問われたら、私ははっきりと頷くことができるだろうか。朝起きて食事をし、学校に行って授業を受け、帰宅して宿題を済ませ眠りに就く。毎週似たよ

うなスケジュールをひたすらにこなし、時には時間を浪費しているようにすら感じる日々を、果たしてそれでも幸福だと私は言えるだろうか。正直なところ自信はない。

それでもきっと、そんな私の当たり前の生活を幸福だと羨み、憧れる子どももまたこの世界の何処かにいるのだろう。私自身が、電車の中で読む小説や、部屋の中で聴く音楽の創り手を羨み、憧れるように。

そんな私が、当たり前の幸福を自覚した大きな出来事が過去にいくつかある。最も大きな出来事は、私が小学校6年生の頃に訪れた。私が本当の父親やあるいは兄のように慕い、尊敬していた4年生時の担任が亡くなったのだ。

その当時はまだ死というものを手く理解できず、数ヶ月後に私は何事もなかったかのように小学校を卒業した。しかしそれからしばらく経ったある年の年末に、過去にもらった年賀状を整理していると、その亡くなった担任からの年賀状がたまたま出てきた。その瞬間、私は理由もよく分からないままに酷く動揺したことをよく覚えている。それから夜中だと言うのに小学校の卒業アルバムを本棚から引っ張り出し、その先生が私たちと共に1年間を過ごしたことを証明できる何かを、私は必死で探そうとした。しかしたった1枚の写真にすら、彼の顔を見つけることができなかったのである。

私はそのことに気付き愕然とし、底のない絶望を覚えた。永遠にそこにあると思っていたものが永遠ではなかったことに、私は彼の死から数年の時間が経ってからようやく気付いたのだ。しばらくはそれがトラウマとなつてしまい、日常に溢れた些細なことを私はいちいち恐れるようになった。その上、失うことを拒む余りに誰かを好きになることもできず、必要以上の人間関係すら作らないようになった時期すらあった。

けれども中学校と高校で様々な人と出逢うに連れ、私はまた以前のように周囲の人と平常心で関わりを持てる状態になった。それに、怯えながらも今当然のように呼吸ができていくのは奇跡的なことではないか、そして何よりそのことに気付けたのはとても貴重な経験ではないかと、自然に思えるようになったのである。何気ない生活を送れていることに真剣に感謝したのは、私がそれまで生きてきて初めてのことであった。

それなのに、こういった経験を重ねても尚、私は未だに普段の生活に苦痛を感じ、自分は不幸だと嘆きたくることがある。学校に通えない子どもたちの話を聞いても、やはり学校は面倒だと感じたことがあったように。ジッドの言葉を読んでも、自分の幸福さを認めることができないように。ただし私は、都合の良い考えだと言われてしまうかもしれないが、それでも良いのではないかと思う。常日頃から「自分は幸せだ」と胸の中で唱えている必要は、ないのではないかと。

本当に大切なことは恐らく、時折でも良いから、周囲に対する感謝の気持ちを持つことだ。今まで不自由のない生活をさせてくれた両親に、生まれた時から一番近くで育ってきた兄弟に、いつも傍にいて笑い合ってきた友達に、高め合い励まし合いながら共に努力してきた先輩や後輩に、勉強だけでなく人として大切なことまで教えてくれた先生に、今までの生活の中で関わりずっと支えてくれた人たちに――。

私がそう思うようになった一番のきっかけは、冒頭の辻井氏の言葉を聞いたことだ。生まれつき目が見えず、自分が弾いているピアノすら目に映したことのない辻井氏が最も見たいと願っているのが、親の顔だという。この言葉は、ここまで自分を育ててきてくれた親に対する深い感謝がなければ、絶対に出てくるものではないだろう。これ程の感謝を人に向けられるというのは、本当に素晴らしいことだ。

私はそんな感謝の気持ちを持てるような、そしてそれと同時に自分の大切な誰かからも感謝をされるような、そんな人間で在りたいと思う。愛情に慣れて感謝の気持ちを忘れるなど、絶対にあってはならないことだ。そして何よりも、素直な「ありがとう」が交わされることで、普段の生活がいつもより幸せに感じられることもきっとあるのではないだろうか。

辻井氏の言葉は、私が忘れていた大切なことを思い出させてくれた。その彼にもまた、大きな感謝の気持ちを贈りたい。



希望を星につなげ!! 栄光を目指して!

卓球部 関東高等学校新人卓球大会出場

「為せば成る」－全員で勝ち取った関東キップ－

卓球部顧問 細田 功

茨城県ひたちなか市総合体育館で行われた第13回関東高等学校新人卓球大会に、2年連続2度目の出場を果たすことができた。出場までの道のりは、決して楽なものではなかった。関東大会出場を決める準々決勝、相手は昨年と同じ東海大菅生高校。昨年のインターハイ予選では都3位の実績を持つ。しかし、選手、顧問の心の中には昨年この大会で、菅生高校を倒し関東出場を決めた時の思いが残っていた。「為せば成る」、選手・応援、チーム一丸となって挑んだ。試合はもつれ2対2で迎えた最終試合、セットオールデュースの末、見事勝利。劇的な関東大会出場の瞬間であった。続く、準決勝は残念ながら日大豊山高校に敗れたものの、卓球部始まって以来の3位入賞を果たすことができた。

「勝利の秘訣」を考えると、「どこにも負けないチーム力」が挙げられると思う。今回の関東大会でも、昨年以上に選手・応援が一丸となり、どの試合も善戦した。「井の中の蛙

大海を知らず」という言葉があるが、東京という枠を超え、関東で経験した事は選手・チームにとって今後大きな財産につながったことと思う。

今回の関東大会出場も、歴代のOBの方々はその礎を築いてくれたお陰であり、陰ながら応援していただいた保護者の方々、ならびに選手の指導に多方面から携わっていただいた方々のお陰であると思う。「為せば成る」その心を忘れず、チーム一丸となりさらなる大海を目指し励みたい。



進む校舎設備の整備

本校の新校舎竣工から11年、総合グラウンド購入から8年が経過しました。快適で安全な教育環境を維持するため、老朽化した設備を今後も順次更新してまいります。

冷暖房用冷温水発生機(ボイラー)のオーバーホール

校舎内の全館冷暖房を行うために地下3階機械室に設置されている冷温水発生機は、1998年11月2日の竣工から一昨年で10年が経過し、ポンプ等の老朽化が目立ち始めました。そこで、学校では突然の運転停止等のトラブルを未然に防ぐために2ヶ年計画を立て、先ず2008年度に2号機のオーバーホールを行いました。引き続き2009年度工事として1号機のオーバーホールを2010年1月に予定しております。

総合グラウンド外周フェンス取替工事

さいたま総合グラウンドの現在の外周フェンスは、2002年度の購入以前から設置されていたものです。このため、一般道路に面しているフェンス269mのコンクリート基礎部分が、老朽化により亀裂が生じて地面からむき出しになっており、フェンスが傾き倒壊の恐れがあります。そこで、一般道路を通行される方や生徒への安全を確保し、美観の回復を図るため、既存フェンスを撤去し写真のように新たなフェンスを設置する工事を2010年1月に予定しております。



ネットフェンス竣工イメージ

SSH活動報告

10月30日から11月3日の期間で、京都にある立命館高校のRSSF (Rits Super Science Fair) 2009に3年SSHクラス5名、教員2名で参加してきました。発表や講義、グループワークなど全て英語で行われました。生徒たちは、最初は英語の世界に戸惑っていましたが、時間が経つにつれ積極的に英語でコミュニケーションを楽しんでいました。英語での発表も堂々とでき、また各国の生徒たちと交流ができ貴重な体験をすることができました。

Rits、課題研究を通して

滝沢 晴名

3年9組 墨田区立本所中学校出身

私の行った研究は、ブルーベリーを使って太陽電池を作成しその効果を計測しました。この実験では多くの先生にお世話になり、いい結果を残すことができました。そして私が1年生からずっと行きたかったRSSFでこの研究を発表させてもらう機会をいただきました。

RSSFでは、4日間13カ国の人たちと英語で過ごしました。最初は恥ずかしくて声を掛けられなく先が不安でした。しかしポスターセッションの当日になると、自然と言葉が浮かんできて様々な国の人に自分の研究を伝えることができました。

英語でのコミュニケーションやポスターセッションで、自分の伝えたいことをどれだけ簡単に分かりやすく伝えるのが大変でした。4日間という短い期間でしたが、得たものはたくさんありました。課題研究とこの活動は自分を大きく成長させてくれたものであり、将来への良いステップになったと思います。



いろいろな国の友達ができました

英語漬け

小川 竜太郎

3年9組 金沢市立清泉中学校出身

正直、RSSFに行く前は、5日間も英語漬けになって、無事に生きて帰ってこられるのだろうかと思っていました。また、それ以前に、プレゼンテーションの準備でも毎日夜遅くまで学校に残り、生きた心地がしないくらい大変でした。

しかし、いよいよRSSFが始まり、自分の母国語ではない英語を使い、必死に相手と意見交換をするということはとても大変でしたが、いつの間にかそれは僕の楽しみになっていました。もともと英語が好きで少し自信もあった僕ですが、やはり海外の学生の英語はとても聞き取りづらく、学校のネイティブスピーカーと会話するのよりも何倍も大変でした。それは僕にとって、ショックでもありましたが、今後、さらに英語の学習に力を入れようと思わせてくれる、非常に良いきっかけにもなりました。帰るころには、京都駅で肩がぶつかったおじさんに“Sorry.”と言ってしまうくらい、私は英語に漬かっていました。もし今、またRSSFに行くかと聞かれたら、迷わずハイと答えます。



英語での発表は緊張しました

英語の壁

後田 藤太

3年9組 川崎市立宮前平中学校出身

RSSFの全体的な感想を言うと、とても楽しかったです。しかし、楽しいことだけではありませんでした。特に苦しかったのは、「言葉が通じない」ということです。日常的な会話は比較的簡単にできたのですが、ポスター発表時に出てくる専門的な言葉やニュアンスを100%伝えきることはとても難しかったです。発表用に用意した文章は実際にはほとんど使わず、その場で、ジェスチャーを交えて必死になって伝えていました。言葉が通じないことは本当に苦しかったですが、そのおかげで自分をもっと英語勉強する必要があると気付くことができました。過去に英語の先生がおっしゃっていた「英語はスポーツ」という言葉の意味がわかった気もします。座学ではなく体を動かしてアクティブに、英語に対して貪欲に学ぶ姿勢が大事なんだと思いました。楽しい思い出と次の課題を見つけることができたので、RSSFでの発表は、自分にとって大変意味のあるものだったと思います。



ちゃんと伝わったかなあ…

お知らせ

東海大学進学相談会 1月9日(土)

進路について考えよう 対象:高校2年生 生徒・保護者

東海大学の教職員を本校に迎え、各学部・学科の特色を説明していただきます。
学部・学科ごとの説明会です。

英検 1月23日(土) 中1・2 全員受験、中3・高校 希望者受験

今年度最後の英検です。ベストを尽くしましょう。

中等部吹奏楽部 第1回定期演奏会

日時:1月30日(土) 16:00 開場 16:30 開演

場所:東京都児童会館(渋谷駅東口から徒歩7分)

初めて中等部だけで演奏会を開催することになりました。
1年間の集大成として部員一同頑張りますので、是非聴きにいらしてください。

笹木春光先生 剣道七段おめでとう

11月27日に、本校剣道部監督の笹木春光中等部生徒指導主任が合格率わずか9.8%の難関を突破して、見事七段に昇段しました。心技体、三拍子揃った見事な成果だと思います。



行事予定

January 1月

February 2月

- 1日(金) 元旦(カナダ中期留学 ~3月2日)
- 6日(水) 新春懇親会
- 7日(木) 朝礼、授業開始
- 9日(土) 東海大学進学相談会(高2)
- 10日(日) 受験生・保護者学校説明見学会(中等部、10:00)
- 11日(月) 成人の日
- 14日(木) 月曜日の授業
- 16日(土) スポーツ大会(高1、アリーナ)
- 18日(月) 本校推薦願書受付(高校)
- 20日(水) 中等部願書受付(第1回 30日まで、第2回 2月2日まで)
専門医によるカウンセリング
- 21日(木) 学年集会(中2、高2)
- 22日(金) 本校推薦入試(中1 都内英語バスツアー、
高校、中2 自宅学習日、中3 マナー講座)
- 23日(土) 英検(中1・2:全員、中3:高:希望者)漢検(希望者)
本校推薦入試可否発表
- 25日(月) 本校推薦入学手続、本校一般入試願書受付(高校 31日まで)
- 28日(木) 学年集会(高3)、校医相談日
- 29日(金) 特別講座終了(高3)

- 1日(月) 中等部第1回入試(中高 自宅学習日)
- 2日(火) 中等部第1回入試合格発表、水曜日の授業
- 3日(水) 中等部第2回入試(中高 自宅学習日)
- 4日(木) 中等部第2回入試合格発表
生徒による授業評価アンケート(高1、2、中等部)
- 5日(金) 卒業試験(中3、~9日)
基礎力判定テスト(5教科)(高1、2)
- 8日(月) 木曜日の授業
- 9日(火) 水曜日の授業
- 10日(水) 高校一般入試(中高 自宅学習日)
- 11日(木) 建国記念の日、一般入試合否発表
- 12日(金) 一般入学手続(平常授業)、答案返却日(中3)
- 15日(月) 朝礼
- 16日(火) ニュージーランド海外英語研修旅行(中3、~25日)
- 17日(水) 専門医によるカウンセリング
- 18日(木) 校医相談日
- 21日(日) 英検2次
- 26日(金) 振替休日(中3)登校日(高3)

編集後記

表紙の写真撮影のため、本校隣の情報通信学部に向った。講義室・研究室・会議室・図書室・資料室・ラウンジ・学生ホールなどを備えた完成間近い地下2階・地上7階建ての「新1号館」(仮称)に続き、今夏には大講義室・実習室・学生ホール・屋上庭園などを備えた地上4階建ての「新2号館」(仮称)の建設が始まる。本校からは、2009年度60名、2010年度42名の卒業生が情報通信学部に進み、これらの新校舎で学ぶことになる。IT企業が集中する品川・港区に東海大学の新たな情報通信教育の拠点が生まれる。(か)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>